



# 2023年12月期 第1四半期 決算フォローアップミーティング

2023/05/11

アース製薬株式会社

# Topic : BARTH事業譲受



- 2023年3月1日にクローリングが完了し、『BARTH』ブランドを譲受け
- 2023年は3～12月の10ヶ月分の業績が寄与
- のれん及びのれんの償却費は暫定値、今後PPAの実施を経て確定する

## BARTH事業譲受の内容

**事業譲受の内容** ・ 薬用BARTH中性重炭酸入浴剤、その他中性重炭酸を配合した商品及びその他「BARTH」ブランドの製品の開発、製造及び販売事業並びにこれらに関連する事業

**譲り受ける  
資産・負債**

- ・ 譲受事業に関連した棚卸資産、無形固定資産

**事業譲受価額**

- ・ 35億円（暫定）
- ・ 事業譲渡契約において、価格調整条項あり

**クローリング日**

- ・ 2023年3月1日



© Earth Corporation All Rights Reserved.

1

まず初めにBARTH事業の譲り受けについてご説明いたします。

3月1日にクローリングし、BARTHがアース製薬のブランドとして仲間入りしました。

2023年12月期は3月～12月の10ヶ月分の業績が寄与します。

なお、今1Qに計上しているのれん及びのれん償却費は暫定値となります。今後、PPAを実施した上で、償却期間、のれんの額、無形固定資産となる額等が確定いたします。今期中には確定いたしますが、現状の数値はあくまでも暫定値であることをご了承ください。



# 2023年12月期 第1四半期業績概要

---

# 業績ハイライト



(単位：億円)

- 増収増益、計画に対して順調な進捗
- 虫ケア用品の初動が好調、価格転嫁による数量減の影響は今のところ軽微

|                 | 実績           | 計画比    | 前期比    | ポイント   |
|-----------------|--------------|--------|--------|--|
| 売上高             | <b>408.1</b> | 101.3% | 105.7% | ・ 虫ケア用品の初動好調<br>・ 入浴剤、マスク、防虫剤など日用品が低調な推移     |
| 売上総利益           | <b>177.5</b> | 99.9%  | 102.2% | ・ 既に仕入済の原材料による影響が顕在化<br>・ 売上構成変化に加え、価格改定効果あり |
| 販管費             | <b>122.2</b> | 92.1%  | 101.5% | ・ 全般的に予算の範囲内に収まる                             |
| 営業利益            | <b>55.3</b>  | 122.9% | 103.9% | ・ 増益、計画達成                                    |
| 親会社帰属<br>四半期純利益 | <b>38.8</b>  | 129.6% | 103.3% | ・ 営業外損益、特別損益で大きな影響はなし                        |

© Earth Corporation All Rights Reserved.

3

1Qの業績ハイライトです。

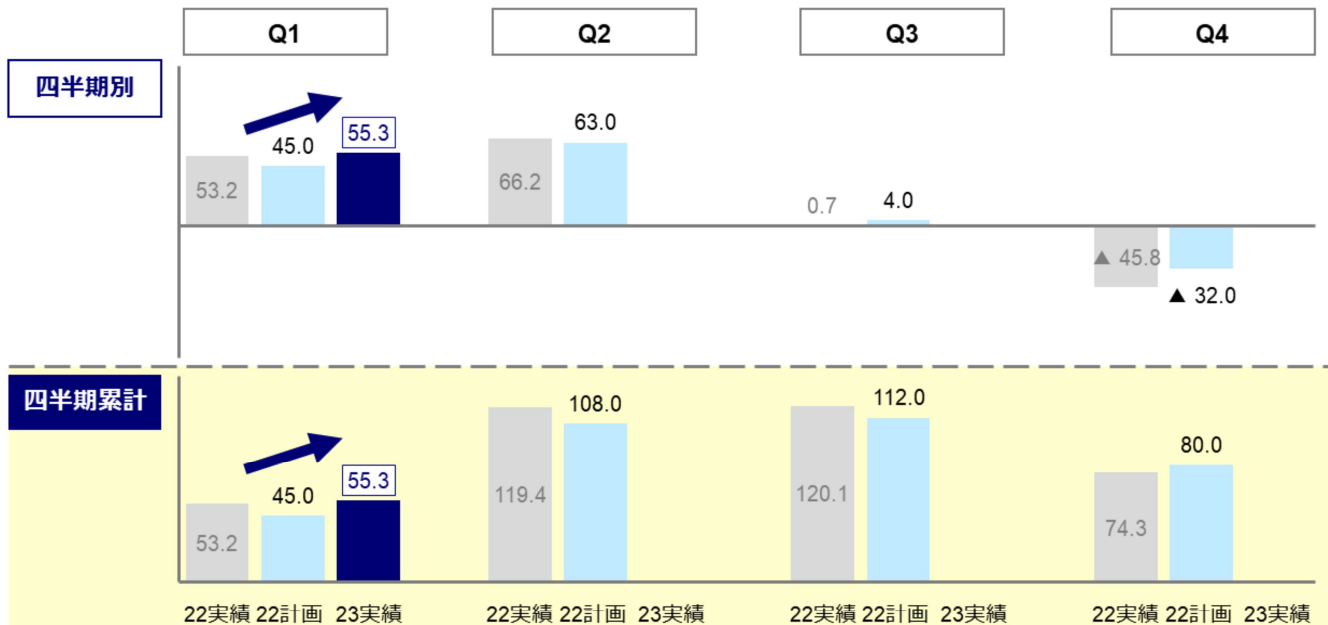
今1Qは増収増益、また、計画に対しても順調に推移しています。虫ケア用品の初動が好調であったことに加え、現時点で価格改定による数量減の影響は軽微であることが考えられます。売上高、営業利益等の実績は記載の通りです。

# 営業利益の進捗（四半期別・累計）



（単位：億円）

- 原材料価格高騰の影響は上期に偏り、下期以降の影響は緩やかになる前提
- 第1四半期は利益計画を達成する順調なスタート



© Earth Corporation All Rights Reserved.

四半期別、累計の営業利益の進捗状況です。

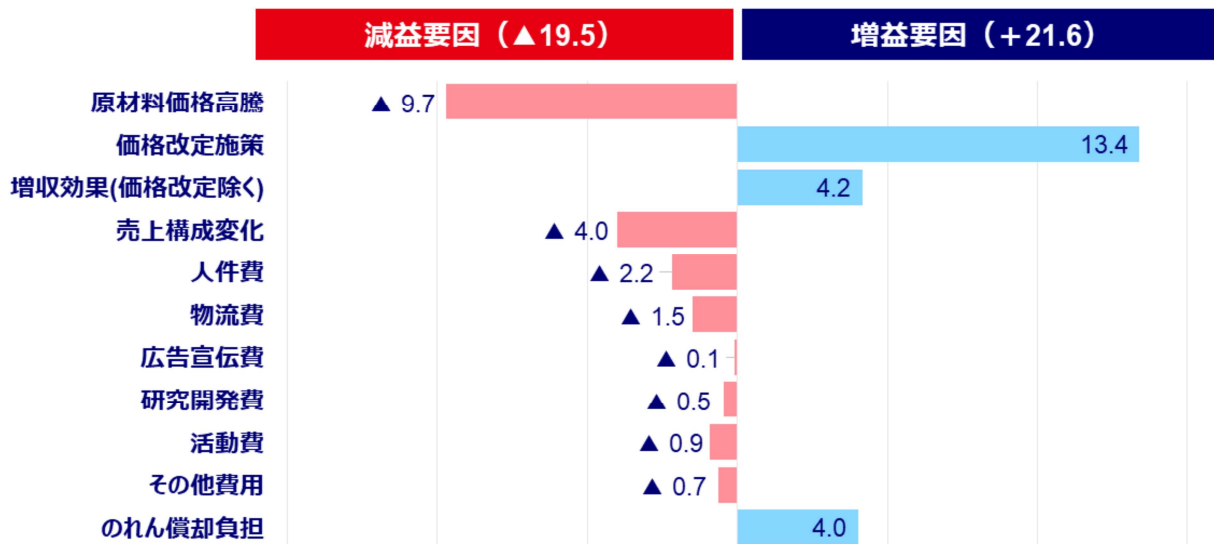
当社の四半期別の利益計画を記載しています。先ほどもご説明した通り、1Qは順調なスタートとなっています。

# 営業利益変動要因（前年同期比）



（単位：億円）

- 原材料価格高騰による影響は価格改定施策によりカバー
- 売上構成変化・必要経費の積み増しなどあるも、増収・価格改定施策により増益を確保



© Earth Corporation All Rights Reserved.

対前年同期の営業利益の変動要因です。

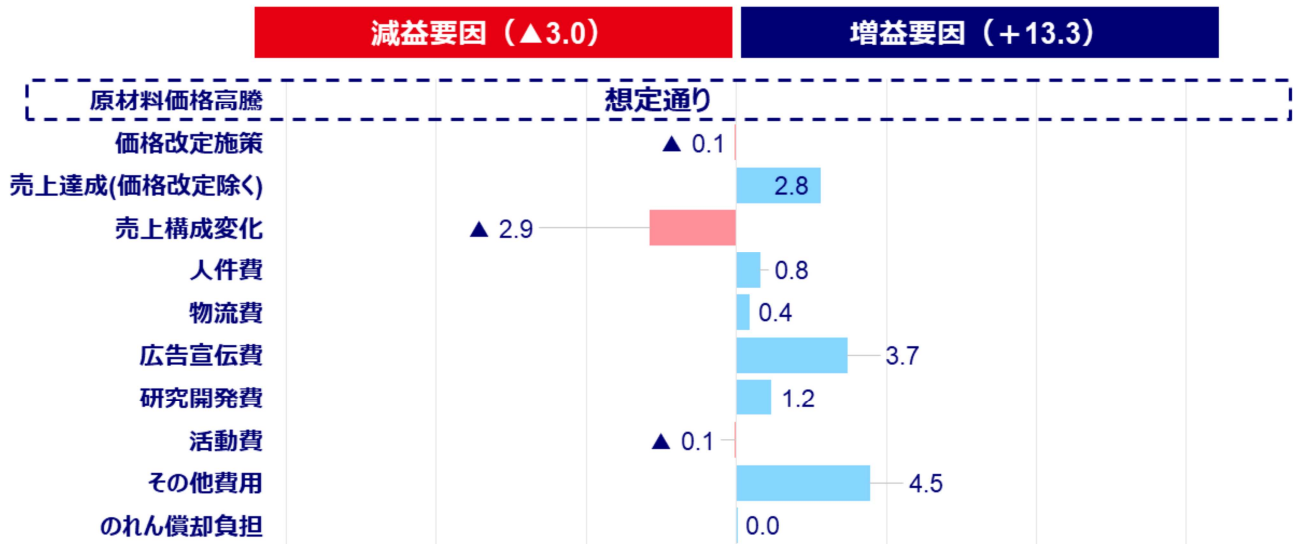
左側（ピンク色）が減益要因、右側（水色）が増益要因です。  
 原材料価格高騰の影響は約10億円だった一方、価格改定施策によって約13億円の増益要因となりました。加えて、増収効果があり、今1Qの増収につながっています。

# 営業利益変動要因（計画比）



（単位：億円）

- 原材料価格高騰による影響、価格改定施策の効果は概ね想定通りで推移  
ただし、価格改定施策の効果については、2Q以降の実消化によって今後の推移が左右される
- 費用は計画の範囲内で進捗



© Earth Corporation All Rights Reserved.

対計画での営業利益の変動要因です。

原材料価格高騰の影響額は計画通りです。また、価格改定施策の効果も1Q時点では想定通りです。また、価格改定施策の効果については、今後の最終消費者の購入（実消化）によって左右されますので、今後も注視が必要です。

その他の費用については、概ね計画通りに進捗しています。

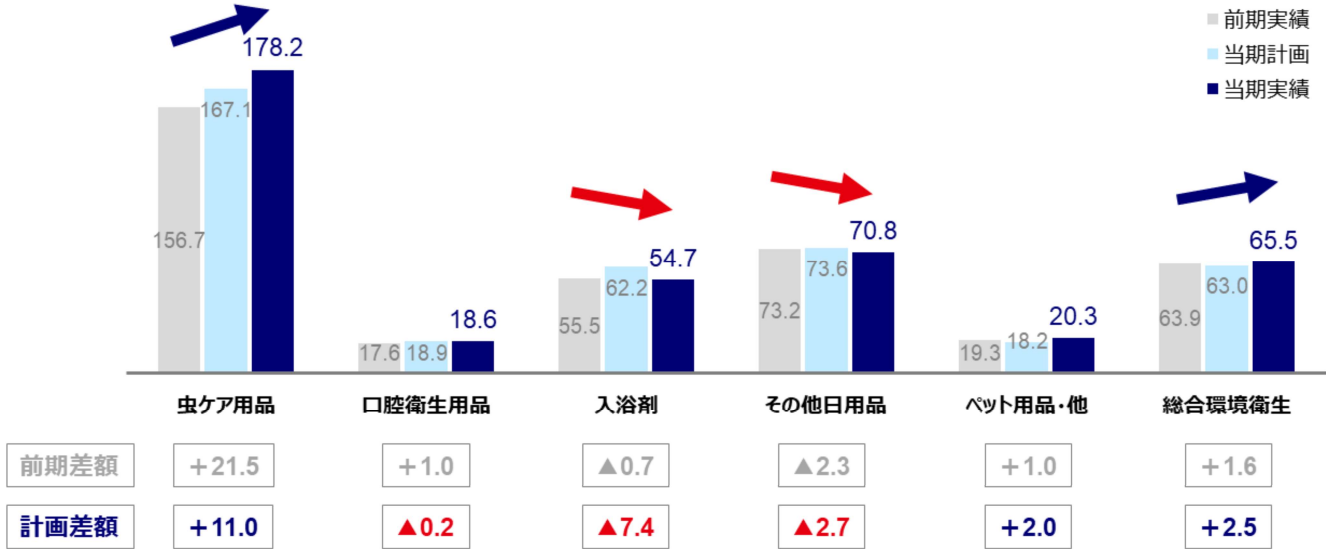
# 部門別売上高



\*外部顧客向け（内部相殺分除く）

（単位：億円）

- 虫ケア用品 : 初動が好調、価格改定による数量減の影響も現時点では限定的
- 入浴剤 : 市場の低調な推移に引きずられ、前期を下回る推移
- その他日用品 : マスク、衣類用防虫剤など主要カテゴリーの減収が影響



© Earth Corporation All Rights Reserved.

7

部門別の売上高です。

虫ケア用品と総合環境衛生が増収に貢献しています。一方で、入浴剤、その他日用品は対前年、対計画ともに下回っている状況です。

虫ケア用品は、初動が好調であったことその他、価格改定による数量減の影響は現時点では限定的です。入浴剤、その他日用品は主に市場の低調な推移に影響を受けている状況です。入浴剤やマスクは外部環境の変化の影響を受けています。



# 国内虫ケア用品の状況



\*外部顧客向け（内部相殺分除く）

## 3月末の市場状況、当社市場シェア

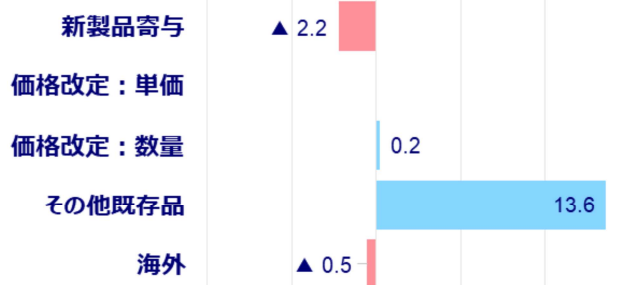
【市場前期比】

【当社市場シェア】

**113.9%**      **59.3%** +0.8pt

- 春先の最高気温が昨年に比べて高めに推移
- ハエ・蚊用、虫よけ用中心に全カテゴリーで前年超え

## 売上増減要因（計画比）



## 新製品の動向

- ・ マモルームエッセンス パール

計画比 **236%**



- ・ マモルームエッセンス スティック

計画比 **126%**



## 基幹商品の動向

- ・ アースノーマット

計画比 **109%**



- ・ 虫よけネット

計画比 **108%**



© Earth Corporation All Rights Reserved.

8

国内虫ケア用品の状況について、詳しくご説明します。

市場は3月末では約114%です。これに対して、当社の市場シェアは59.3%になり、昨年に比べて0.8ポイント上昇しています。背景は、昨年に比べて春先の気温が高めに推移したことが考えられます。中でもハエ・蚊用や虫よけ用が大きく伸びています。なお、直近の市場の状況は、ほぼ前年並みとなっています。昨年4月の市場が上振れていたため、前年並みとなっていますが、減少したとは見ていません。

売上の増減要因について、新製品寄与は想定を下回っていますが、価格改定施策の影響は想定通りです。また、その他既存品の売上成長が予想を上回っています。新製品では、マモルームエッセンスパールが計画比236%、マモルームエッセンススティックが計画比126%と好調に推移しています。基幹商品であるアースノーマットや虫よけネットが1Q時点では2桁に近い売上成長となっています。

# 国内入浴剤の状況

\*外部顧客向け（内部相殺分除く）

## 3月末の市場状況、当社市場シェア

【市場前期比】

**90.1%**

【当社市場シェア】

**45.8% ▲2.5pt**

- コロナ禍に伴う需要の盛り上がり一段落し、主要剤型が前年を下回る低調な市場推移

## 新製品・BARTHの動向

- 温泡 Kids

計画比 **63%**



- 中性重炭酸入浴剤 BARTH

計画比 **79%**



## 基幹商品の動向

- きき湯

計画比 **97%**



- 温泡

計画比 **89%**



- バスクリン・バスロマン

計画比 **87%**



- 日本の名湯シリーズ

計画比 **101%**



© Earth Corporation All Rights Reserved.

9

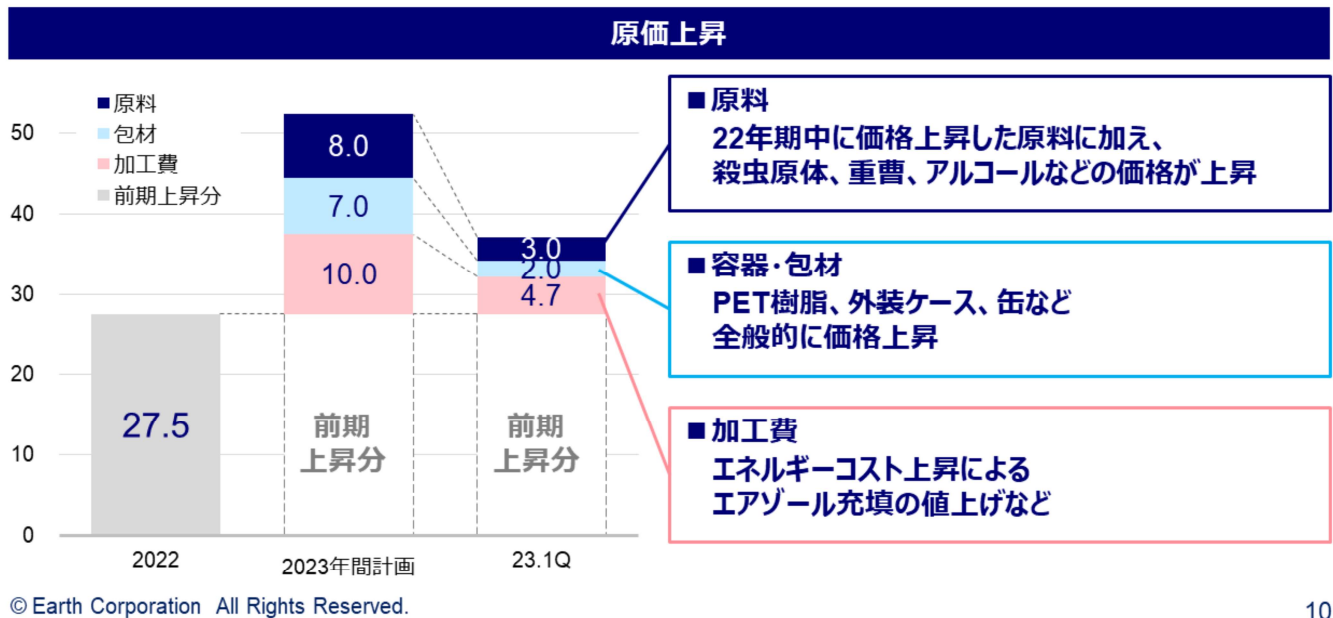
国内入浴剤の状況です。

市場は厳しい状況です。市場前期比は90.1%、市場シェアは45.8%です。高いシェアはキープしていますが、前年比で2.5ポイントの減少となっています。コロナによる需要の盛り上がり一段落している状況に加え、主要剤型が前年を下回り、低調な市場推移となっています。

# 原価の状況

(単位：億円)

- 2022年期中に価格上昇した原料の影響が今期になって顕在化
- 年間25億円の影響額に対して1Q時点の影響額は9.7億円となっているが、当初から影響は上期に偏ることを前提としており、概ね想定通りの進捗



10

原材料価格高騰の影響についてご説明します。

2022年期中に価格上昇した原材料の影響が今期になって顕在化してきています。今期は年間25億円の影響を見込んでおり、1Q時点では9.7億円の影響を受けました。主に影響を受けた内容として、原料は殺虫原体、重曹、アルコール等が価格上昇しています。加えて、昨年度に仕入れた原料の影響が今期のPLに表れています。容器・包材は全般的に上昇しています。加工費はエネルギーコストの上昇によってエアゾール充填の費用が増加しています。

年間25億円の計画に対しては概ね想定通りに推移しています。今後の原材料市況等にも因りますが、計画から大きくズレていることはありません。

# 販管費の状況



(単位：億円)

■ 広告宣伝費・研究開発費の期ズレなどはあるものの、全般的に予算の範囲内に収まる

|              | 2022年<br>1Q累計実績 | 2023年<br>1Q累計計画 | 2023年<br>1Q累計実績 | 計画対比          | ポイント                  |
|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------------|
| 人件費          | 49.8            | 52.8            | 52.0            | ▲ 0.7         |                       |
| 運送費          | 9.5             | 10.6            | 10.1            | ▲ 0.5         | 物流コスト高騰               |
| 保管料          | 5.9             | 6.8             | 6.8             | 0.0           | 在庫増に伴う増加              |
| 広告宣伝費        | 6.9             | 10.7            | 7.0             | ▲ 3.6         | 期ズレ                   |
| 販売促進費        | 2.8             | 4.1             | 2.5             | ▲ 1.5         |                       |
| 研究開発費        | 6.6             | 8.2             | 7.1             | ▲ 1.1         | 期ズレ                   |
| 減価償却費        | 3.4             | 3.9             | 3.9             | 0.0           |                       |
| のれんの償却費      | 4.2             | 0.2             | 0.2             | 0.0           | 2022年1Qまでバスクリンのれんの償却費 |
| 旅費交通費        | 2.5             | 3.2             | 3.1             | ▲ 0.1         |                       |
| 交際費          | 0.8             | 0.9             | 1.1             | 0.2           |                       |
| 支払手数料        | 2.9             | 4.8             | 3.3             | ▲ 1.5         |                       |
| 販売手数料        | 3.6             | 3.3             | 3.2             | 0.0           |                       |
| 雑費           | 1.1             | 2.3             | 1.3             | ▲ 0.9         |                       |
| その他          | 20.4            | 20.8            | 20.6            | ▲ 0.7         |                       |
| <b>販管費 計</b> | <b>120.4</b>    | <b>132.6</b>    | <b>122.2</b>    | <b>▲ 10.4</b> |                       |

© Earth Corporation All Rights Reserved.

11

販管費の状況です。

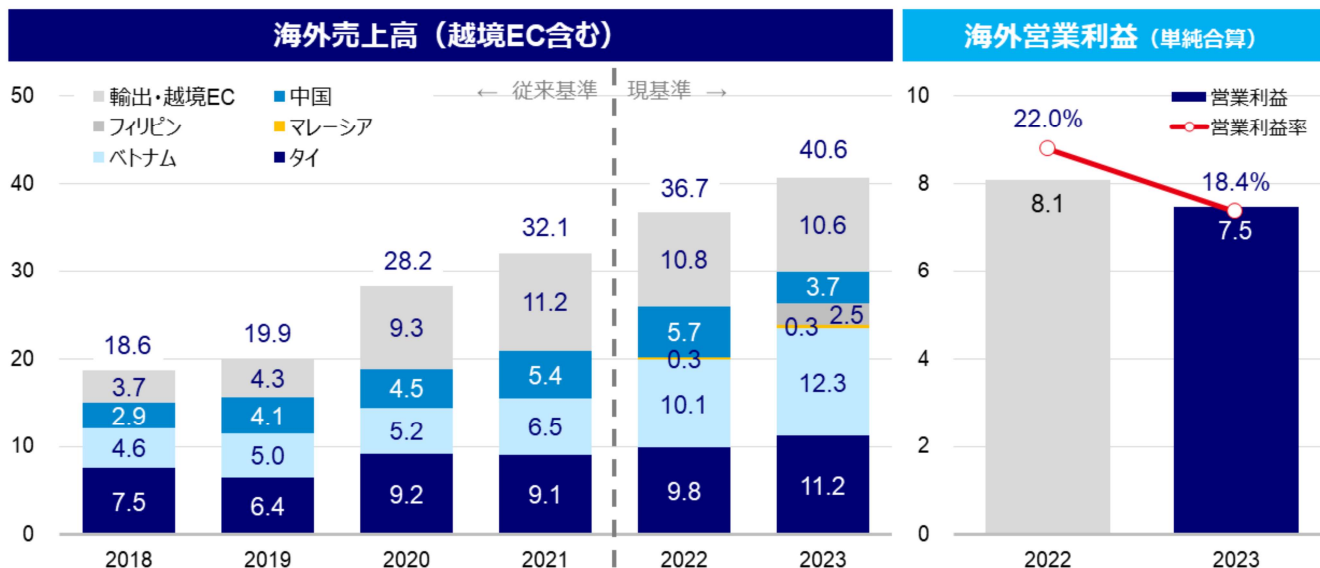
計画に対して約10億円の抑制となりました。

# 海外業績



(単位：億円)

- タイ（前期比 113%）・ベトナム（同 122%）中心に順調に成長
- 前期3Qより損益連結したフィリピンの現地法人の売上が寄与
- 原材料価格高騰の影響は落ち着いているが、1Q時点の収益性はやや低下



© Earth Corporation All Rights Reserved.

12

海外業績についてです。

順調に成長を続けています。今期は特に、タイとベトナムを中心に成長しており、前期比でそれぞれ、113%、122%の成長となっています。加えて、昨年3Qより新規で損益連結したフィリピン（EARTH HOMECARE PRODUCTS（PHILIPPINES）,INC.）の売上寄与があります。

スライド右側に単純合算した営業利益を記載しています。収益性は低下しているものの、海外では、原材料価格高騰の影響は落ち着いてきており、今後収益性が回復してくるものと想定しています。

# 2023年 計画ハイライト

前回発表から修正なし



(単位：億円)

■ 概ね順調に進捗しており、2023年2月公表の計画から変更なし

|                  | 2023 計画 | ポイント   | 2022 実績 |
|------------------|---------|--|---------|
| 売上高              | 1,600   | ・ 販売数量増、高単価製品のローンチ、価格改定、海外成長<br>・ 虫ケア用品市場は2022年並みを前提 | 1,523   |
| 売上総利益            | 665.0   | ・ 原材料価格高騰の影響想定（▲25億円）を価格改定施策により吸収                    | 624.6   |
| 販管費              | 585.0   | ・ 引き続き、適切なコストコントロールを実施<br>・ 将来成長に向けて、人件費を積み増し        | 550.3   |
| 営業利益             | 80.0    | ・ 前期比+5.6億円<br>・ 営業利益率5%の確保                          | 74.3    |
| 親会社株主帰属<br>当期純利益 | 54.0    | ・ 微増益  | 53.0    |
| ROE              | 8%台     | ・ 資本効率を意識し、最低限のROE目標を掲げる                             | 8.6%    |

© Earth Corporation All Rights Reserved.

13

23年の計画は、前回発表から変更はございません。

## 【株主還元ポリシー】

- 安定配当をベースに、業績や内部留保の水準に応じて、増配・自己株買いなど機動的に検討
- KPI : DOE（純資産配当率）4～5%

### 配当関連KPI

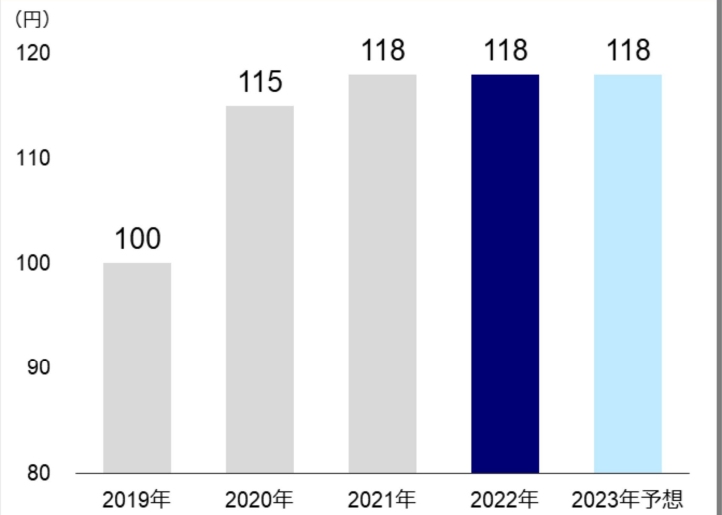
DOE（純資産配当率）

2022年 2023年予想  
**4.2%** ➔ **4%台**

連結配当性向

2022年 2023年予想  
**49.1%** ➔ **48.2%**

### 1株当たり配当金推移



© Earth Corporation All Rights Reserved.

14

株主還元についても、2月に発表した内容から変更はございません。  
安定配当をベースに業績や内部留保の水準に応じて、機動的に施策を検討していきます。  
今期のDOEは4%台、連結配当性向は48.2%と想定しています。

地球を、キモチいい家に。



**EARTH**  
Act For Life

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

2023年12月期第1四半期決算の説明は以上です。